

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年は、本年度の達成率は、校内が区全体を0.2%上回る48.6%となった。分野別では、世界の中での日本について問われる問題の正答率が、おおむね目標値と同程度である。
- ・第2学年は歴史的分野、特に古代の日本の単元で目標値を達成することができていた。思考判断を伴う問題についての正答率が高かった。
- ・第3学年は、地理的分野・歴史的分野ともに基礎知識の定着が十分に図れていた。特に、歴史的分野では中世のヨーロッパ・江戸時代・明治時代の知識に関して、定着度が高かった。

(2) 課題

- ・第1学年は、歴史分野では、縄文～室町時代の基礎知識の定着に課題がある。また、政治分野では、日本国憲法についての基礎知識に課題がある。校内の平均が区全体の平均を下回ったのが縄文～平安時代の問題で4問中3問ある。鎌倉・室町時代の問題で3問中2問ある。また、この7問のうち、目標値に対して評価が下回っていないものは1問のみである。
- ・第2学年は、地理分野の各単元で、基礎知識の定着に不十分な点が多くあった。特に、世界と日本の自然環境に関する問題や世界の諸地域についての問題に課題があった。
- ・第3学年は、地理（資源・エネルギー）・歴史（明治時代）的分野の各単元で、基礎知識を図る問題に加え、様々な知識を関連付けて表現する問題に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	令和5年度の区全体と校内の達成率はそれぞれ59.8%と62.6%。 区全体を校内が2.6%上回る結果となった。 本年度の区全体と校内の達成率はそれぞれ48.4%と48.6%。 区全体を校内が0.2%上回る結果となった。	目標値を達成できた分野。単元と達成できた分野単元に大きな開きがあった。	
第2学年	歴史的分野の正答率が区の平均値の-0.5と多少高かったのに対し、地理的分野においては、-4.2と大きく下回った。	歴史的分野のすべての問題内容で区の目標値を下回った。一方、地理分野の内容では目標値をほとんど上回った。	目標値をおおむね達成できた。歴史的分野の基礎理解と地理的分野での思考・判断において、さらなる向上が目指せる。

第3学年	歴史的分野・地理的分野のすべての問題内容で区 の目標値を上回った。一 方、歴史的分野の中世・ 近世の問題では正答率も 高かった。	地理分野・歴史分野共に 目標値を上回った。	地理分野・歴史分野共に 目標値を上回った。
------	--	--------------------------	--------------------------

(2) 分析 (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	歴史的分野に関して、全時 代を通して基礎知識が不 十分である。	知識・技能を問う問題と 比較して、同程度の目標 値に対する評価である。 とは言え、知識・技能を 問う問題に比べて活用 問題が多いことから慎重 にみるべきである。	知識・技能を問う問題と 比較して、同程度の目標 値に対する評価である。 とは言え、知識・技能を 問う問題に比べて活用 問題が多いことから慎重 にみるべきである。
第2学年	歴史的分野の中世の日本 の基礎知識の定着に課題 が多い。 地理的分野の世界の様々 な暮らしにおいて、十分 に理解ができていないこ とがわかる。	他の分野と比較すると、 思考・判断を伴う問題に ついては、多少達成率が 良いことがわかる。しか し、応用すべき知識の定 着が不十分であるとも いえる。	昨年度に比べて、数値は 全体的に低い。 個人に焦点を当ててみ ると、二極化が大きく見 られる。
第3学年	歴史的分野の明治時代に 関して、基本知識が不十 分である。 全体的に歴史的・地理的 分野ともに正答率が高い ことから理解度は高い。	全体的に歴史的・地理的 分野ともに正答率が高 いことから理解度は高 い。	昨年度に比べて、数値は 全体的に高い。 この観点の得点が高い 生徒は、他の観点での得 点も高い傾向にあり、無 解答も少ない。

3 授業改善のポイント (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	地理分野では、都道府県 テスト、国名テストなど を都度設け、基礎知識の 定着を図ると同時に、生 徒に自分の理解度を意識 させ、見通しを持った学 習ができるようにする。	地理分野では、単語を問 うような発問方法では なく、理由や根拠を問う 発問をしていく。その中 でも、日常に関連付け て、日々の生活の中で自 主的に問いを立てられ るところまでもっていく。	正答率度数分布表で比 較すると、昨年度は山型 が多く見られたが、本年 度はフタコブラクダ型 が多く見られる。 定期テストの点数だけ でない主体性の評価の ため、評価ポイントを増 設する。

第2学年	<p>基本的な知識を整理させるため、一問一答テストなどを行い、基礎学力の定着を図る。</p> <p>授業計画を見直し、教員間でのカリキュラムマネジメントを行い、定着を図る。</p>	<p>単元を貫く課題を設定し、クリティカルシンキングをベースにおき、自ら考え判断できる力の育成を目指す。</p>	<p>I C T機器、タブレットのアプリケーションを用いて、学習評価を即時的に行えるようにする。</p> <p>相互評価を行う機会を提供し、生徒の意欲の向上を図る。</p>
第3学年	<p>基本的な知識を整理させるため、一問一答テストなどを行い、基礎学力の定着を図る。</p> <p>複数の資料を関連付けて読み取る問いを、ワークシートに取り入れ、資料活用能力を養う。</p>	<p>単元ごとに課題を設定し、身に付けた知識を活用して自分の考えをまとめることや発表することに重点をおいた指導を行い、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。</p>	<p>生徒の関心意欲を高めるために、I C T機器を活用して、様々な写真や資料を提示したり、生徒が主体的に調べたりする機会を多く設定し、生徒の学習に対する意欲の向上を図る。</p>